資料3別添

中間貯蔵施設事業において発生した事例と対応等の詳細（2020年３月環境安全委員会報告以降）

2020年８月

環境省

交通事故（輸送車両の人身事故）

事例の概要

輸送車両（空荷）の通勤車両（普通車）との追突　　2020年３月５日　16時27分頃　＜前田JV＞

- 浪江町からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻る途中、南相馬市内の国道６号で、赤信号で停止した中間貯蔵施設事業他業務の作業員の通勤車両（普通車）に追突した。
- 当該車両の運転手はけがなし。相手車両の運転手は顔面・鼻部打撲、同乗者４名は頭部・腰部挫傷等と診断。

発生要因

- 緊張感を持続できず、前方不注意となった。

再発防止策

- 交差点の走行等に関する安全教育を実施する。
- 安全運転適性診断を実施する。
- 運転手の特性を考慮した配車計画とする。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故①）

事例の概要

(1) **輸送車両（空荷）の一般車両（大型トラック）との接触**　2020年３月５日　６時5分頃　＜前田JV＞

- 川俣町からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場に向かうため、同町内の県道12号線を走行中、対向してきた一般車両（大型トラック）とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

(2) **除去土壌等の輸送車両の一般車両（大型トラック）との接触**　2020年３月12日　８時35分頃　＜前田JV＞

- 飯舘村からの輸送車両が、南相馬市内の八木沢トンネルを走行中、対向してきた一般車両（大型トラック）とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

(3) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年３月27日　10時30分頃　＜大林JV＞

- 福島市からの輸送車両が、休憩のため立ち寄った磐越自動車道三春PA駐車場で、先に停車していた輸送車両に接触した。

発生要因

(1) 狭隘箇所での減速が不足していた。
(2) 狭隘なトンネル内で防衛運転（減速等）が不足しており、中央寄りに走行してきた対向車を避けきれなかった。
(3) パーキングブレーキの引きが不完全だった。

再発防止策

(1) 狭隘箇所の運転方法（減速、徐行又は停止）を指導。
(2) 狭隘なトンネルの運転方法（トンネル進入前やすれ違い前の十分な減速等）を指導。
(3) パーキングブレーキの確認方法（メーターパネルのブレーキ警告灯の点灯、フットブレーキを離しても車両が動かないこと）及び指差呼称の実施を指導。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故②）

事例の概要

(4) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年４月14日　11時12分頃　＜大林JV＞

- 飯舘村からの輸送車両が、常磐自動車道大熊IC出口合流地点で、他の車両に道を譲ろうとして停止した先行の輸送車両に接触した。

(5) **輸送車両（空荷）の他の輸送車両との接触**　2020年５月８日　10時16分頃　＜戸田JV＞

- 浪江町からの輸送車両（空荷）が、２回転目の輸送のため仮置場へ戻る途中、双葉町内の国道288号で対向してきた他の輸送車両とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

(6) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年５月20日　９時55分頃　＜鹿島JV＞

- いわき市からの輸送車両が、富岡町内の県道36号線を走行中、対向してきた他の輸送車両とすれ違った際、両車の車両後部が接触した。

発生要因

(4) 前方の確認不足。車間距離の不足。

(5) 代車を運転中、車載器を台座に固定しておらず、カーブ走行時に落下が気になって脇見運転となった。カーブ手前での減速が不足していた。

(6) 狭隘箇所で、対向車が中央線寄りに停止する中、自らの運転技量で通過できると思い込み進んだ。

再発防止策

(4) 高速道路IC出口合流地点での前方・側方の安全確認、車間距離の確保、徐行運転を指導。

(5) 車載器は専用の台座に固定して使用することを代車の場合にも徹底。カーブの手前や大型車両とのすれ違い前等の早めの減速、徐行又は一時停止を指導。音声ナビに、対向車との接触事故発生地点であることの注意喚起を追加。

(6) すれ違いの難しい箇所での運転方法（対向車が停止しても、すれ違いできるか再確認すること、状況によりすれ違い可能な箇所まで協力し合って後退すること）を指導。ドライブレコーダー映像を使用して教育を実施。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故③）

事例の概要

(7) **除去土壌等の輸送車両の一般車両（軽自動車）との接触**　　2020年５月25日　11時15分頃　＜大林JV＞

- 福島市からの輸送車両が、常磐自動車道を走行中、路肩に停車していた一般車両（軽自動車）が、急にハンドルを切って本線に戻ってきたため、避けられずに接触した。

(8) **輸送車両（空荷）の一般車両（軽自動車）との衝突**　　2020年６月２日　６時35分頃　＜戸田JV＞

- 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場に向かうため、同市内の県道34号線を走行し、仮置場へ左折して入場しようとした際、後方から走行してきた一般車両（軽自動車）が衝突した。

発生要因

(7)　相手車両がハザードランプを付けたまま急に走行車線に飛び出した。

(8)　左折して仮置場に入場する際に、路肩が狭いことから対向車線にはみ出す形となり、車線左側にスペースが空いたところを、後方車両が通過しようとした。輸送車両は後方車両の存在に気付いていなかった。

再発防止策

(7)　危険予知運転を徹底するよう指導。

(8)　仮置場への入口を、路肩に余裕のある箇所に変更。右左折や進路変更時の安全確認について指導。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故④）

事例の概要

(9) **輸送車両（空荷）の一般車両（普通車）との接触**　2020年６月２日　13時５分頃　＜大林JV＞

- 郡山市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻る途中、大熊町内の町道東17号線を走行し、東大和久交差点を国道6号下り方面へ右折する際、下り線を直進してきた一般車両（普通車）と接触した。

(10) **除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両との接触**　2020年６月６日　９時40分頃　＜戸田JV＞

- 国見町からの輸送車両が、休憩のため立ち寄った磐越自動車道三春PA駐車場で、他の輸送車両に接触した。

(11) **除去土壌等の輸送車両の一般車両（大型車）との接触**　2020年６月19日　８時25分頃　＜前田JV＞

- 川俣町からの輸送車両が、浪江町内の国道114号を走行中、対向してきた一般車両（大型車）とすれ違った際、両車のサイドミラーが接触した。

発生要因

(9)　周囲の確認不足。交差点手前で停止していたところ、国道6号上り線の車両がパッシングしてくれたため、下り線の直進車両を確認しないまま進んだ。（下り線の右折車線に車両が並んでおり直進車線が見えにくかった。）

(10) フットブレーキのみで停車している間に他のことが気になり、ブレーキの踏み込みを緩めた。

(11) カーブでの減速が不足していた。

再発防止策

(9)　交差点走行時の安全確認方法及び危険予知運転の徹底について指導。

(10) 停車時には必ずパーキングブレーキをかけるよう注意喚起するステッカーをハンドルに貼付。

(11) カーブでは、対向車が中央線寄りを走行してくることを予測して事前に十分に減速するように指導。ハザードマップに追記して注意喚起。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故①）

事例の概要

(1) **除去土壌等の輸送車両の中央分離帯との衝突**　2020年３月９日　10時45分頃　＜前田JV＞

- 二本松市からの輸送車両が、磐越自動車道田村スマートIC付近を走行中、走行車線から追い越し車線へ斜行し、中央分離帯に衝突した。

(2) **除去土壌等の輸送車両の道路標識との接触**　2020年３月13日　13時40分頃　＜前田JV＞

- 飯舘村からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行し、山田ゲートで通行許可証を確認後、発進する際、道路標識に左サイドミラーを接触させた。

(3) **輸送車両（空荷）の道路脇法面への衝突**　2020年３月16日　６時５分頃　＜前田JV＞

- 川俣町からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場へ向かう途中、同町内の県道12号線の左カーブでスリップしたため左にハンドルを切ったところ、道路脇の法面に衝突した。

発生要因

(1) 事故直前に運転手の体調に異変があった。（脂汗が出て胸等に違和感が生じ意識が飛んだ。事故後に病院で検査を行ったが、持病以外の病気については特定されなかった。持病である高血圧症等については薬を服用していた。）

(2) 通行許可証を受け取って車内に置く動作をしながら、前方の確認を十分に行わないまま発進した。

(3) 下り坂で路面が凍結している状況に対して、減速が不十分だった。

再発防止策

(1) 運行管理者が加療中の運転手を把握し、健康管理を指導する。薬服用中の運転手に対しては、現場朝礼時に血圧を確認する。

(2) 発進時の周囲の安全確認、ながら運転の禁止、通行許可証確認時のパーキングブレーキ使用を指導。

(3) 路面凍結時の運転方法等について指導。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故②）

事例の概要

(4) **除去土壌等の輸送車両の橋りょう地覆部との接触**　2020年４月９日　９時7分頃　＜前田JV＞

- 南相馬市からの輸送車両が、双葉町内の町道原田・目廻線を走行中、愛宕下橋を通過する際、橋りょうの地覆部に左側タイヤが乗り上げた。

(5) **輸送車両（空荷）の道路逸脱**　2020年４月14日　５時7分頃　＜前田JV＞

- 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、車両基地から仮置場へ向かうため、南相馬市内の県道34号線を走行中、対向車を避けようとして道路脇の農地に逸脱した。

(6) **除去土壌等の輸送車両の道路標識との接触**　2020年４月22日　９時10分頃　＜前田JV＞

- 川俣町からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行し、山田ゲートで通行許可証を提示するため順番待ちをしている際、道路標識支柱に左サイドミラーを接触させた。

発生要因

(4) 前方不注意。
(5) 対向車を避けようとして左側に寄り過ぎ、前日の大雨で滑りやすくなっていた路肩にハンドルを取られた。狭隘箇所での減速が不十分だった。
(6) 前方車両との距離に意識が集中し、標識への注意が不足した。

再発防止策

(4) 事例を周知し、ながら運転の禁止や安全速度での運転について指導。ハザードマップに追加して注意喚起を実施。
(5) 狭隘箇所でのすれ違いは十分に減速して行うこと、特に大雨後はハンドル操作ではなく減速により対向車の回避を行うことを指導。
(6) ハザードマップに追記し、注意箇所については指差確認を行うことを含めて注意喚起を実施。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故③）

事例の概要

(7) **除去土壌等の輸送車両の道路脇への脱輪**　2020年５月22日　９時30分頃　＜大林JV＞
- 川俣町からの輸送車両が、同町内の町道を走行中、路肩に脱輪した。

(8) **輸送車両（空荷）のデリネーターとの接触**　2020年５月25日　14時43分頃　＜清水JV＞
- いわき市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻るため、田村市内の国道288号を走行中、道路脇のデリネーターにバンパーを接触させた。

(9) **除去土壌等の輸送車両の電柱との接触**　2020年６月３日　８時14分頃　＜大成JV＞
- 飯舘村からの輸送車両が、同村内の県道12号線を走行中、大型車両とすれ違うため一旦停止し、すれ違い後に発進する際、電柱に左サイドミラーを接触させた。

(10) **輸送車両（空荷）の道路標識支柱との接触**　2020年６月20日　12時13分頃　＜大林JV＞
- 郡山市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻るため大熊町内の県道252号線を走行中、道路標識支柱に左サイドミラーを接触させた。

発生要因

(7)　走行中に助手席から手袋を取ろうとして前方不注意となった。
(8)　小動物の出現でハンドル操作を誤った。緩やかな右カーブの通過にあたり減速が不十分だった。
(9)　側方の確認不足。
(10)　対向車線の工事に気をとられた。右カーブ手前での減速が不十分だった。

再発防止策

(7)　ながら運転の禁止、出発前準備の徹底、指差確認の実施について指導。
(8)　危険予知運転を行うこと及び緩いカーブでも十分に減速することを指導。
(9)　ハザードマップ及び車載音声ナビに追加して注意喚起。すれ違い時のルールを指導。
(10)　脇見運転・ながら運転の禁止、道路状況の把握と十分な減速を指導。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故④）

事例の概要

（11）**輸送車両（空荷）の道路脇への横転**　　2020年７月２日　13時53分頃　＜大林JV＞

- 郡山市からの輸送車両（空荷）が、輸送を終え車両基地へ戻るため、国道288号（大熊町大字野上字湯の神地内）を走行中、脱輪し、道路脇に横転した。
- 運転手にけがはなかった。
- ７月18日夜間に車両の引き上げを行った。

発生要因

（11）対向車を避けようとして左にハンドルを切ったところ、路肩の幅が狭い箇所であったため、脱輪した。

再発防止策

（11）すれ違い時の運転方法（特に、路肩の狭い区間においては徐行又は停止すること）を教育する。

- 当該区間に注意喚起看板等を設置する。

図　事故の発生状況

図　事故後の看板設置状況

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故⑤）

事例の概要

(12) **除去土壌等の輸送車両の道路標識支柱との接触**　　2020年7月13日　10時5分頃　＜大林JV＞

- 二本松市からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行し、山田ゲートで通行許可証の提示のために停止する際、道路標識支柱に左サイドミラーを接触させた。

(13) **除去土壌等の輸送車両の車線分離標との接触**　　2020年7月31日　12時22分頃　＜清水JV＞

- 西郷村からの輸送車両が、常磐自動車道を走行中、ならはPAを過ぎた付近で、車線分離標に接触した。

発生要因

(12) 側方の確認不足。
(13) 助手席に置いたファイルが落下しそうになったため押さえようとして目線をそらした。

再発防止策

(12) 二段階停止の実施、指差確認の実施の指導。
(13) 車内の整理整頓、車内の荷物等が動かないようにすること、運転中に運転から意識がそれる行動の禁止について指導。

交通事故（業務車両の物損（対物）事故）

事例の概要

(1) **運搬車両の電柱との衝突**　2020年7月13日　9時35分頃　＜清水JV＞

- 工事用運搬車両（4tダンプ）が、大熊町内の県道252号線を走行中、対向車とのすれ違いの際に、道路脇に脱輪し電柱に衝突した。

(2) **大型トレーラーの橋の欄干への接触**　2020年7月22日　10時40分頃　＜安藤・間JV＞

- バックホウを積んだ大型トレーラーが、双葉町内の町道113号線を走行し町道346号線へ右折するために切り返しを行っていたところ、伊賀橋の欄干（ガードレール）に接触した。

発生要因

(1) 路肩舗装があると思い込み、十分な徐行や一時停止をせずに、対向車とすれ違いをしようとした。

(2) ガードレールの位置の確認が不足していた。運転手の死角をカバーする位置に誘導員がいなかった。

再発防止策

(1) すれ違い時の走行方法（状況に応じて十分な徐行又は一時停止をする）について指導。当該箇所に注意喚起のためののぼり旗とロープを設置。

(2) 誘導員は、運転手の死角をカバーする位置に立ち、運転手は、誘導員が適切な位置にいることを確認して運転操作を行う。

交通事故（通勤車両の物損（対車両）事故）

事例の概要

通勤車両の一般車両（軽自動車）との衝突　　2020年7月28日　9時40分頃　＜大林JV＞

- 作業員の運転する通勤車両が、大熊町内の国道6号を走行中、中間貯蔵施設区域の入場ゲートに入るために転回して一旦歩道部に入った後に本線に出たところ、後方から走行してきた一般車両（軽自動車）が追突した。

発生要因

- 後方確認不足。
- 転回禁止箇所であることの理解不足。

再発防止策

- 後方確認、一時停止、制限速度遵守等の安全教育の実施。
- 中間貯蔵施設区域への入場ゲート周辺の国道6号の走行ルールの周知。

交通事故（通勤車両の物損（対物）事故）

事例の概要

通勤車両の道路標識との衝突　　2020年５月25日　20時24分頃　＜鹿島JV＞

- JV職員が運転する通勤車両が、大熊町内の町道西49号線を走行中、道路左側の歩車道境界ブロックに乗り上げ、標識柱に衝突した。

発生要因

- 前方不注意、運転操作ミス。

再発防止策

- 漫然運転の防止等に関する安全教育を実施。

公道での事例（輸送車両の運転手の交通違反）

事例の概要

輸送車両の運転手の交通違反

(1) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、同町内を走行中、シートベルト装着義務違反で警察の取締りを受けた。（2020年３月27日）＜清水JV＞

(2) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道を走行中、携帯電話使用等（保持）違反で警察の取締りを受けた。（2020年４月17日）＜鹿島JV＞

(3) 相馬市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道を走行中、シートベルト装着義務違反で警察の取締りを受けた。（2020年６月16日）＜戸田JV＞

発生原因

(1) シートベルト装着を失念していた。警報ランプが点灯していたが気が付かなかった（音声警報機能はなかった）。
(2) 仮置場出発前に着信があったことが気になり、不意に携帯電話を手に取って操作した。
(3) シートベルトを不適切な方法で使用していた。

再発防止策

(1) 仮置場出入口に人員を配置し、シートベルト装着状況のチェックを実施。各車両のハンドル等に注意喚起ステッカーを貼付。車載音声ナビに注意喚起メッセージを追加。
(2) ながら運転禁止の指導。携帯電話固定ホルダーの設置。ハンズフリー片耳イヤホンの利用徹底。
(3) 運転記録証明書で違反歴を確認し指導を実施。各仮置場の出発前チェックリストに、シートベルトの装着状況の点検欄を追加し、下請負事業者及びJVが確認。

公道での事例（輸送車両のスクリーニング未実施）

事例の概要

輸送車両（空荷）のスクリーニング未実施

- 大熊町からの輸送車両（空荷）が、3回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、スクリーニング未実施のままゲートを通過した。（2020年3月14日）＜戸田JV＞

発生原因

- 考え事をしていたため、スクリーニング場に向かうことを失念した。
- スクリーニングを促す音声ナビを聞き逃した。
- ゲート通過前に、誘導員及び運転手がスクリーニング未実施に気付いたが、ゲート周辺道路が狭隘であったため、転回せずにゲートを通過した。

再発防止策

- スクリーニングの重要性について再教育を実施する。
- 音声ナビを、単にスクリーニングを促すだけの単調な表現ではなく、運転手に問いかける表現に変更し、繰り返し注意喚起するよう改善する。

公道での事例（輸送ルート逸脱①）

事例の概要

(1) 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道12号線の交差点で右折すべきところを、直進した。（2020年3月2日）＜大林JV＞

(2) 川内村からの除去土壌等の輸送車両が、大熊町の町道東101号線の交差点で直進すべきところを、左折した。（2020年3月4日）＜戸田JV＞

(3) 葛尾村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道288号から県道35号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年3月6日）＜大林JV＞

(4) 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、双葉町内の県道111号線から町道493号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年3月10日）＜鹿島JV＞

(5) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道12号線の交差点で左折すべきところを、直進した。（2020年3月13日）＜前田JV＞

(6) 南相馬市からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号から市道50号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年3月27日）＜鹿島JV＞

(7) 須賀川市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年3月31日）＜大林JV＞

(8) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道矢吹ICからあぶくま高原道路へ向かうべきところを、直進した。（2020年4月1日）＜清水JV＞

(9) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山ICで下り線にのるべきところを、上り線にのった。（2020年4月1日）＜大林JV＞

(10) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年4月3日）＜清水JV＞

(11) 川俣町からの除去土壌等の輸送車両が、国道114号から県道35号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年4月14日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送ルート逸脱②）

事例の概要

(12) 浪江町からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、町道の交差点で左折すべきところを、直進した。（2020年4月20日）＜戸田JV＞

(13) 浪江町からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道114号から県道120号線へ右折すべきところを、直進した。（2020年4月27日）＜前田JV＞

(14) 大熊町からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、町道東17号線を直進すべきところを、左折した。（2020年5月7日）＜清水JV＞

(15) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、国道114号から町道六福線へ右折すべきところを、直進した。（2020年5月11日）＜前田JV＞

(16) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、国道4号から東北自動車道本宮ICに右折すべきところを、直進した。（2020年5月11日）＜大成JV＞

(17) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年5月11日）＜鹿島JV＞

(18) 白河市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道矢吹ICからあぶくま高原道路へ向かうべきところを、直進した。（2020年5月14日）＜大林JV＞

(19) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、国道4号から国道459号へ左折すべきところを、直進した。（2020年5月19日）＜大成JV＞

(20) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、常磐自動車道南相馬ICでおりるべきところを、直進した。（2020年5月22日）＜大林JV＞

(21) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。（2020年5月29日）＜清水JV＞

(22) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、国道288号から双葉町の町道山田・郡山線へ右折すべきところを、直進した。（2020年5月29日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送ルート逸脱③）

事例の概要

(23) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年5月30日）＜大林JV＞

(24) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、国道4号から東北自動車道二本松IC方面に左折すべきところを、直進した。
（2020年6月2日）＜鹿島JV＞

(25) 川内村からの輸送車両（空荷）が、3回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、村道貝ノ坂・サゴ岡線から仮置場入口へ右折すべきところを、直進した。
（2020年6月8日）＜戸田JV＞

(26) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山JCTから磐越自動車道へ向かうべきところを、直進した。
（2020年6月22日）＜鹿島JV＞

(27) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、国道114号から町道六福線へ右折すべきところを、直進した。
（2020年7月6日）＜前田JV＞

(28) 富岡町からの輸送車両（空荷）が、4回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号から県道251号線へ左折すべきところを、直進した。
（2020年7月7日）＜清水JV＞

(29) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し県道62号線を左折すべきところを、右折した。
（2020年7月8日）＜清水JV＞

(30) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年7月14日）＜大林JV＞

(31) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、常磐自動車道南相馬ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年7月15日）＜清水JV＞

(32) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりるべきところを、直進した。
（2020年7月16日）＜鹿島JV＞

(33) 飯舘村からの輸送車両（空荷）が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道31号線を左折すべきところを、直進した。
（2020年7月18日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送ルート逸脱④）

事例の概要

(34) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山JCTから磐越自動車道へ向かうべきところを、直進した。（2020年7月30日）＜大林JV＞

輸送ルート逸脱後の対応

- 輸送ルートからの逸脱は、総合管理システムのアラートが鳴ることにより気付く場合が多いが、逸脱後に運転手自らが気付く場合もあった。
- 逸脱後は、安全な場所に待機し、受注者が安全に輸送ルートに復帰する方法を環境省と確認するなどした後、正規ルートに復帰した。

再発防止策

- 運転手に対し、走行ルート、タンデム走行についての再教育を実施。
- 実走訓練、添乗指導の実施。
- 逸脱発生箇所について車載音声ナビに追加又は音声ナビを分かりやすく改善。
- 逸脱発生箇所への注意喚起看板の設置。
- 案内標識での安全呼称実施の徹底。
- 先行車がルート逸脱をした際の後続車の対応の再確認。
- 朝礼や研修等で、ルートを誤りやすい箇所等について、ハザードマップや画像によるテスト等を用いた確認を実施。

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル①）

事例の概要

(1) 南相馬市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約800m走行したところで液漏れが発生し、安全な場所で停止・待機した。自走で仮置場に戻った。（2020年３月４日）＜鹿島JV＞

(2) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道三春PAで休憩後出発の際、冷却水警告灯が点灯した。修理業者が修理後、輸送を継続した。（2020年３月９日）＜大林JV＞

(3) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、南相馬市内の県道12号線を走行中、エンジンオイル警告ランプが点灯したため、安全な場所で停止・待機した。修理業者による応急処置の後、JV職員の先導で仮置場に戻った。待機箇所に少量のオイル漏れがあり、中和剤とオイル吸着マットにより清掃を行った。（2020年３月18日）＜清水JV＞

(4) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約700m走行したところでエンジン警告灯が点灯し安全な場所で停止・待機した。JV職員の先導で仮置場に戻った。（2020年４月１日）＜大成JV＞

(5) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道を走行中、エンジン回転数が突如ダウンし、路肩に寄せて停止した。レッカー車で受入・分別施設へ移動した。（2020年４月９日）＜大林JV＞

(6) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、同村内の県道12号線を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。JV職員の先導で仮置場に戻った。（2020年４月21日）＜西松JV＞

(7) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道を走行中、エンジンの回転数が上がらず、路側帯に停止・待機した。修理業者が修理後、輸送を継続した。（2020年４月22日）＜大成JV＞

(8) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、あぶくま高原道路を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者が修理後、輸送を継続した。（2020年６月29日）＜清水JV＞

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル②）

事例の概要

(9) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、南相馬市内の県道12号線を走行中、水温警告灯が点灯し、安全な場所で停止・待機した。修理業者の点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。
（2020年7月1日）＜前田JV＞

(10) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者が修理後、輸送を継続した。（2020年7月3日）＜大成JV＞

(11) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、いわきJCT手前付近で、エンジン警告灯とオイル警告灯が点灯し、安全な場所で停止・待機した。修理業者の点検後、輸送を継続した。
（2020年7月8日）＜大成JV＞

(12) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。レッカー移動で仮置場に戻った。（2020年7月13日）＜大林JV＞

(13) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、川俣町内の国道114号を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者の点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。
（2020年7月20日）＜大成JV＞

(14) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約2km走行したところで、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。レッカー移動により仮置場に戻った。（2020年7月22日）＜前田JV＞

(15) 葛尾村からの除去土壌等の輸送車両が、陳場沢車両待機場に待機後、出発しようとした際、エンジンがかからなくなった。修理業者が修理不可と判断し、代替車両に積み替え、輸送を継続した。
（2020年7月27日）＜前田JV＞

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル③）

発生要因

(1) ラジエーターのパッキンの損傷による冷却液漏れ。
(2) ヒーターコア内部腐食による冷却液漏れ。
(3) クランクシャフトのオイルシールの経年劣化によるオイル漏れ。
(4) EGRバルブの固着により、バルブの開閉動作不良が発生。
(5) 燃料ポンプおよびコモンレール本体の故障。
(6) サプライポンプの不具合による燃料無圧送発生。
(7) 整備工場での定期点検の際の整備不良（燃料タンクのリターンパイプとサクションホースの取り付け間違い）。
(8) ターボチャージャー系統エアホース外れによるエンジン出力低下。
(9) ラジエーター内部の錆が詰まったことによるオーバーヒート。
(10)車速センサーの経年劣化による故障。
(11)原因特定できず。
(12)錆等によりラジエーター配管が損傷し、冷却液が漏れたことによるオーバーヒート。
(13)車検時に燃料フィルターを交換した際、空気抜きが不十分で燃料ライン内に空気が混入。
(14)ターボチャージャーの故障。
(15)インジェクションの故障。

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施の指導。
- 部品の定期交換の実施。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。
- 整備業者への注意喚起。

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク①）

事例の概要

(1) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道ならはPAで休憩後、出発前点検を行った際、右前輪がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年３月17日）＜大林JV＞

(2) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PA付近を走行中、左前輪がバーストし、路側帯に停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年３月27日）＜前田JV＞

(3) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約500m走行したところで走行に違和感を感じ、安全な場所で停止・待機し、右前輪がパンクしているのを発見した。レッカー移動により仮置場に戻った。

（2020年４月22日）＜大林JV＞

(4) 川内村からの除去土壌等の輸送車両が、富岡町内の県道36号線を走行中、右後輪の後軸内側タイヤがパンクし、安全な場所に停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年５月15日）＜戸田JV＞

(5) 須賀川市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩後、出発前点検を行った際、右前輪がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年５月26日）＜清水JV＞

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク②）

事例の概要

(6) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道いわきJCT付近を走行中、右後輪の後軸外側がパンクし、安全な場所に停止・待機した。タイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年５月30日）＜清水JV＞

(7) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PA手前付近を走行中、左後輪の後軸内側がバーストし、差塩PAに停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年６月１日）＜鹿島JV＞

(8) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道を走行中、タイヤに異常を感じたため、阿武隈PAに停止して確認したところ、右後輪の後軸外側タイヤのパンクを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した

（2020年６月10日）＜清水JV＞

(9) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道いわき三和IC付近を走行中、左後輪の後軸外側がバーストし、安全な場所に停止・待機した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年６月10日）＜大成JV＞

(10) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩時に点検を行った際、右後輪の後軸外側がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年６月15日）＜清水JV＞

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク③）

事例の概要

(11) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩時に点検を行った際、左後輪の後軸内側がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年6月29日）＜清水JV＞

(12) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道差塩PAで休憩時に点検を行った際、左後輪の前軸内側がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。

（2020年7月14日）＜清水JV＞

発生要因

- 輸送路上又は現場内で釘やネジ等の鋭利な物を踏んだ。
- タイヤの損耗。
- ホイールの損傷。

再発防止策

- 日常点検、出発前点検等の確実な実施の指導。
- 路上等の落下物等に関する注意喚起。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。

公道での事例（輸送車両のミッション部故障）

事例の概要

- 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、白河市内の国道4号を走行中、ギヤの切り替えができなくなったため、安全な場所で停止・待機した。修理業者による点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。

（2020年7月29日）＜清水JV＞

発生要因

- ギヤ配線の断線。

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施の指導。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。
- 車検の点検項目への追加。

公道での事例（輸送車両のブレーキ故障）

事例の概要

(1) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、同市内の国道13号を走行中、圧縮空気の圧力低下が発生し、安全な場所で停止・待機した。修理業者による点検後、JV職員の先導で仮置場に戻った。
（2020年6月23日）＜清水JV＞

(2) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道ならはPAで休憩後、圧縮空気が溜まらず走行不能になった。修理業者による応急処置後、輸送を継続した。（2020年7月3日）＜大林JV＞

発生要因

(1) エアドライヤーの不具合に起因してブレーキチャンバーが腐食し、エア漏れが発生。
(2) エキゾーストテールパイプが錆で腐食し、漏れた排気ガス熱でエアホースが破損。

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施の指導。
- 部品の定期交換の実施。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。

公道での事例（輸送車両のその他故障等）

事例の概要

(1) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、バッテリー警告灯が点灯したため、休憩場所である差塩PAで停止・待機した。修理業者による修理後、輸送を継続した。
（2020年３月27日）＜大林JV＞

(2) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、南相馬市内の県道12号線を走行し、常磐自動車道南相馬ICに入る際、エンジン警告灯が点灯したため、安全な場所で停止・待機した。修理業者による修理後、輸送を継続した。
（2020年４月16日）＜前田JV＞

(3) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、大熊IC車両待機場で休憩後、出発する際に、少量の燃料漏れを発見した。修理業者による修理後、輸送を継続した。 漏れた燃料については路面の洗浄を行った。
（2020年７月１日）＜鹿島JV＞

発生要因

(1) 発電機のファンベルトが経年劣化により破断。
(2) Noxセンサーの誤作動で検知が正常にできなくなったことによりエンジン警告灯が点灯。
(3) 前週の車検の際に、燃料エレメントキャップのエア抜きプラグの締め付けが不足していた。

再発防止策

(1) 日常点検の確実な実施の指導。
- 部品の定期交換の実施。

(2) 3ヶ月点検の際にNoxセンサーの動作確認を実施。
(3)日常点検、出発前点検等の確実な実施の指導。
- 整備業者におけるダブルチェックの実施。

作業場での事例（飛来、落下によるけが【労災隠し】）

事例の概要

落下した鉄板に接触して骨折した事故及びその労災隠し　　事故発生：2019年1月27日　14時頃　＜鹿島JV＞

- 受入・分別施設において、ベルトコンベアへの大型土のうの投入口の補強作業を行っていた二次下請負事業者の作業員の左手に、上方から鉄板（重量約5.6kg）が落下して中指を骨折した。鉄板は、上方で片付けを行っていた別の作業員が重ねて置いた残材であった。
- 事故後、被災者は4日以上休業したにもかかわらず、私的理由による骨折として休暇を申請した。二次下請負事業者は、労働基準監督署への報告を行わなかった。
- 2019年9月に受注者が事実を確認。速やかに環境省及び富岡労働基準監督署に報告した。報告を受けた富岡労働基準監督署において調査を実施し、環境省も調査に協力していた。2020年7月、富岡労働基準監督署は、労働者死傷病報告書を遅滞なく提出しなかったとして、二次下請負事業者をいわき区検察庁に書類送検した。

事故の発生要因

- 事故発生時には主要作業が完了しており、また上部作業者から被災者を視認できない箇所であったため、上下作業回避のための確認が不足していた。
- 落下防止板の高さを越えて鉄板を置いていた。

事故の再発防止策

●受注者は事実確認後、速やかに下記の対策を実施した。

- 上下作業の禁止を周知徹底。上部作業者は相番作業者が目視確認できない場合は作業を中断し、声掛け又は無線により位置確認を行って上下作業を回避する。
- 資材は落下防止板の高さを越えないように、かつ落下防止板より十分奥に置く。

労災隠しの再発防止策

● 受注者が実施した対策

- 労災等の発生時には、被災者の保護を第一に考え、速やかに報告することの重要性や、具体的な報告体制・手順等について、全ての下請負事業者及び作業員に繰り返し周知する。

● 環境省から全受注者に指示した対策

- 休業を要する労災が発生した際には労働基準監督署に適正に報告することや、労災発生時の報告体制・手順等について、全ての下請負事業者及び作業員に周知徹底する。
- 下請負事業者が労働基準関係法令を遵守しているか点検する。

作業場での事例（墜落、転落によるけが①）

事例の概要

(1) **トラック荷台からの転落による作業員のけが**　　2020年３月24日　15時30分頃　＜前田JV＞

- 南相馬市の輸送の終了した仮置場の片付けのため、4tトラックに資材（直径50cm、長さ5mの集水管２本）をバックホウで積み込む作業中、資材が荷振れ（跳ね上がり）したため、荷台上で合図していた作業員が荷台から飛び降りて地面に右手を突いた。
- 右鎖骨の骨折と診断。

発生要因

(1) 長さのある資材に対して荷台の作業可能スペースが狭く、足元が不安定な状態で作業を行った。また転落防止策も不十分であった。

- 弾性があり、跳ね上がりの可能性がある資材に近付いて作業を行った。
- 積込み方法の指示が具体的ではなかった。

図　事故の発生状況

再発防止策

(1) 積込み作業について、作業手順や使用機械等を明確にして周知する。

- 荷の大きさや形状に合った運搬車両を使用し、無理な姿勢での作業とならないよう、作業スペースを確保する。
- 弾性のある資材の跳ね上がりが危険要因となることを注意する。
- 荷台上での作業が必要な場合には、親綱を張って転落を防止する。

作業場での事例（墜落、転落によるけが②）

事例の概要

(2) **大型土のうからの転落による作業員のけが**　2020年5月25日　12時10分頃　＜戸田JV＞

- 川内村の仮置場で、玉掛け作業員が大型土のう（高さ約60cm）から降りる際に、バランスを崩して転落し、敷鉄板に右肘を打った。
- 右肘の骨折と診断。

(3) **輸送車両の運転席ステップからの転落による運転手のけが**　2020年6月15日　8時15分頃　＜戸田JV＞

- 国見町の仮置場で、輸送車両の運転手が降車する際、運転席のステップから足を滑らせて転落し、右肩を打った。
- 右上腕部の骨折と診断。

発生要因

(2) 不安定な、含水処理前の可燃物の大型土のうに乗って作業を行っていた。

(3) 片手で手すりをつかんでいたため、ステップで足が滑った際、支えきれず転落した。

再発防止策

(2) 作業手順を改善して周知。不安定な状態に対する体感訓練を実施する。

(3) 運転席への昇降時の危険性を周知し、昇降は三点支持で行うよう徹底する。運転席のドア等に注意喚起シールを貼付する。

作業場での事例（墜落、転落によるけが③）

事例の概要

(4) **輸送車両の荷台からの転落による作業員のけが**　　2020年7月14日　11時20分頃　＜清水JV＞

- 富岡町の仮置場で大型土のうをバックホウで輸送車両に積み込む作業中、作業員が荷台上で玉外しを行った後に足場に退避しようとしたところ、作業員の安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛かった状態でバックホウが旋回した。作業員はワイヤーに引っ張られ、車両の側方にあった大型土のうの山の上に転落した。
- 胸椎の骨折、腰背部と腹部の打撲と診断。

発生要因

(4)　玉外し者が退避する前に、バックホウのオペレーターが旋回を行った。

- 輸送車両の後方に配置したバックホウで積込み作業を行っており、玉外し者の安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛かりやすい配置であった。

図　事故の発生状況

再発防止策

(4)　玉外し者（合図者）は足場に退避してから合図をすること、重機のオペレーターは玉外し者が退避して合図してから旋回を行うことを周知徹底する。

- 積込み用のバックホウを、輸送車両の側方（玉外し者が退避する足場の逆側）に配置し、安全ブロックのワイヤーがバケットに引っ掛からないようにする。作業スペース上それが困難な場合には、バックホウのバケットを平爪に変更して引っ掛からないようにする。

作業場での事例（墜落、転落によるけが④）

事例の概要

(5) **大型土のうからの転落による作業員のけが**　　2020年7月16日　11時40分頃　＜大林JV＞

- 大熊町の容器残さ置場において、大型土のうの山に設置していた親綱のたるみを修正しようと、作業員が下から1段目の大型土のうに上って親綱を引っ張った際、親綱のフックを掛けていた3段目の大型土のうの取手がちぎれ、その反動で地面に転落した。
- 左上腕部の骨折と診断。

発生要因

(5) 親綱フックの取付位置が適切でなかった。大型土のうの吊りひもではなく、強度のない取手に取り付けていた。

- 大型土のう上からの転落に対する危険予知ができていなかった。

再発防止策

(5) 親綱フックの取付位置を明確化し、写真で分かりやすく周知する。

- 下から1段目の大型土のうの上で作業する際には、2段目の大型土のうの吊りひもに安全帯を掛けるルールとし、周知する。

作業場での事例（転倒によるけが）

事例の概要

(1) **ラック運搬中の転倒による作業員のけが**　　2020年7月10日　14時55分頃　＜鹿島建設＞

- 双葉町の廃棄物貯蔵施設の建設作業中に、作業員が、足場材の仮置き用のラックを運搬していたところ、バランスを崩して転倒し、右足をひねった。
- 右足関節骨折と診断。

(2) **玉掛け作業中の転倒による作業員のけが**　　2020年7月17日　11時15分頃　＜戸田JV＞

- 富岡町の仮置場で、作業員が、大型土のうの上で玉掛けを行い、退避する際、大型土のうの吊りひもに足を引っ掛けて転倒し、両手を突いた際に右手首をひねった。
- 右手橈骨の骨折と診断。

発生要因

(1) 足場材仮置き用ラックの運搬について作業手順の指示が明確ではなかった。

(2) 足元の確認が不足していた。また、大型土のう上での移動について作業手順の指示が明確ではなかった。

再発防止策

(1) 足場材仮置き用ラックの移動について、人力での移動を禁止するなど、作業手順を明確化して周知する。

(2) 移動時は、指差呼称を実施しながら足元を確認すること、上段の大型土のうに手を添えながら移動することなど、大型土のう上での移動方法を明確化して周知する。

作業場での事例（激突によるけが）

事例の概要

アルゴンボンベ倒れによる作業員のけが　　2020年４月３日　11時20分頃　＜新日鉄JV＞

- 双葉町の仮設灰処理施設で、作業員が、アルゴンボンベ7本の乗ったボンベ台を移動中、バランスが崩れてボンベ台が倒れ、両足に当たった。
- 両足関節の骨折と診断。

発生要因

- ボンベを、運搬用ではないボンベ台に載せて移動させた。
- ボンベの移動方法について作業手順の指示が明確ではなかった。

再発防止策

- ボンベを移動する際には、専用運搬具又は運搬台車を使用し、かつ落下防止対策をとって運搬することを明確化して周知する。

作業場での事例（はさまれ、巻き込まれによるけが）

事例の概要

スリングベルトへのはさまれによる作業員のけが　　2020年4月1日　9時50分頃　＜鹿島JV＞

- 浪江町の仮置場で、バックホウにより大型土のうを移動する作業を行っていた。バックホウのオペレーターが、吊り上げた大型土のうを移動先に下ろした後、玉外し者の合図により、大型土のうの吊りひもに通していたソフトスリングベルトを巻き上げたところ、玉外し者の左手がスリングベルトにはさまれた。
- 左手首の骨折及び脱臼等と診断。

発生要因

- 玉外し者が、スリングベルトの間に手を入れ、その状態のまま退避せずに、バックホウのオペレーターに対して巻き上げの合図を送った。
- バックホウのオペレーターが、玉外し者の退避を確認せずに巻き上げの操作を行った。
- 大型土のうの吊りひもからスリングベルトを抜く手順が不明確だった。
- 大型土のうの吊りひもに絡み付きやすいソフトスリングベルトを使用した。

再発防止策

- 玉掛け・玉外し時における合図のタイミング（退避してから合図すること）、大型土のうの吊りひもからのスリングベルトの抜き方、退避の位置、バックホウの操作のタイミング（玉掛け者・玉外し者が退避して合図が確認できてから操作すること）等について作業手順を明確化し、周知する。
- 現場に玉掛け者・玉外し者の退避位置を明示する。
- 適度な硬さがあって吊りひもに絡み付きにくいタイプのスリングベルトに変更する。

作業場での事例（重機による物損）

事例の概要

重機（地盤改良機）による架空線損傷　　2020年７月９日　15時30分頃　＜大成JV＞

- 双葉町の保管場造成工事で、地盤改良機が場内を移動した際、架空線（電力線）を切断した。

発生要因

- 架空線の手前で駐機して作業終了とする予定であったが、地盤の状況に気を取られていて停止位置を誤り、予定の位置を越えて移動させた。
- オペレーターと監視人との間の連絡用無線の音量を休憩時に下げたまま上げておらず、聞き取りづらい状況であった。
- 架空線注意喚起用ののぼり旗を、架空線の直下にしか設置していなかった。

再発防止策

- 架空線の近傍で重機作業等を行う際は、監視人の合図に従うことを周知徹底する。また、朝礼時及び休憩後に、職長が一人ずつ無線の動作確認を行う。
- 注意喚起用ののぼり旗は、架空線の直下のみではなく、離隔をとった位置に設置する。また、架空線周囲への立入禁止範囲を設定し明示する。